

伊藤邦幸氏の逝去を悼む

京都大学基督教学会設立の中心となり、『基督教学研究』第1号から第10号までの発行人を務められた伊藤邦幸氏が一九九三年八月八日聖隷三方原病院において逝去された。

略年譜（西暦による）

- 五一～五三 東京大学教養学部理科二類、東大山岳部に入部。
五三～五五 同大学文学部倫理学科
五五～五七 同大学大学院人文科学研究科修士課程倫理学専攻
五九～六三 京都大学大学院文学研究科博士課程基督教学専攻
六〇・二一・二五 第五次南極観測隊に参加（山岳部OBとして）。
六三～六七 京都大学医学部医学科学生
六三・七二 医師黄聡美さんと結婚
六七～六八 京都大学付属結核及び胸部疾患研究所研修生
六八・七月 医師免許取得
九月 日本キリスト教海外医療協力会（JOCSS）ネパール診療調査員としてネパールに出張
六九～七〇 夫妻JOCSS海外派遣医師となる。インドで研修。
七一・一月 伊藤家子女4人も加わり、カトマンズでの生活はじまる。六月オカルドウンガ診療所で活動開始。
七二・一月 オカルドウンガ診療所長に任命される。
七三・一月 第一期の活動を終え帰国。日赤長浜病院勤務。
- 七四・五月 オカルドウンガ診療所にて活動再開。
七七・三月 第二期活動を終え帰国。夫妻で『ヒマラヤ診療その日その日』を出版（新教出版社）。浜松市聖隷三方原病院に夫妻で勤務。
八一・七月 『オカルドウンガ診療所』を出版（新教出版社）
八六・〇・二六 聡美夫人第三期活動にそなえてトレーニング中、富士山頂付近で遭難、逝去。
八八・七月 『海外医療協力論』出版（キリスト教図書出版社）
八九・一月 ネパールへ出発。インド、カトマンズで研修し、七月オカルドウンガに入る。
九二・三月 第三期の活動を終え帰国。
九二・六月 米国において研修のため出発。
九二・九・元 健康不調を訴え、ボストンの病院に入院
九二・二・一 ボストンより浜松の聖隷三方原病院に転院
九三・八・八 脳幹部再梗塞により逝去。享年六十二歳。
氏は、シュヴァイツァーの様に、30歳まで哲学を学び、30歳を過ぎて医学部学生となり、医師免許取得後は少年時代からの念願であったアジアの人たちのための医療奉仕活動に挺身された。氏の活動については「略年譜」中の著書、並びに遺書となった「同行二人、東ネパールにおける地域医療」（新教出版社）を参照されたい。氏夫妻のご冥福と残された六人の子供さんたちのご多幸を祈って、筆を置く。（高野晃兆 記）